

## テニス4大トーナメント観戦記

原田義則（3組）

50歳を過ぎてからスタートし、10数年来下手なテニスを楽しんでいます。毎週1回程度のテニススクール通いと布施修一郎君(6組)や関賢治君(2組)が毎年企画してくれる同期テニスの会に参加していますが、なかなか上手にならないので、「イメージ・トレーニング」の一環として10年以上前からテレビ観戦に加えて一流プロの生の試合を見始めました。

私が以前に4年ほど出向していた通産省（現在の経済産業省）と民間10数社で作った研究所のトップ（東レの伊藤昌寿会長（故人）：テニス好きで有名で一緒にプレーをしたこともあります。氏は東レパンパシフィックオープン(PPO) テニスで優勝者にトロフィーを渡していました。）との関係で、有明コロシアムまで東レPPOの観戦や、ジャパンオープンテニストーナメント、デビスカップ（男子の国別テニス対抗戦）の観戦に行っていました。しかし、その内にこれではだんだんと飽き足らなくなり、「世界の一流選手同士の生の試合」を観てみたいと思うようになり、2年前にテニスの4大トーナメント観戦に行くことにしました。

まずは、昔3年ほど住んだことがあり、勝手知ったるパリで5-6月に開催される「全仏オープンテニストーナメント@ローラン・ギャロス」からスタートし、昨年1-2月の「全豪オープンテニストーナメント@メルボルン」、8-9月の「全米オープンテニストーナメント@ニューヨーク」と続き、最後は先日ロンドンにて開催された「ウィンブルドン選手権（全英）」観戦と続き、2年間を掛けてテニスの4大トーナメントを制覇しました。ゴルフで言えば4つのメジャー選手権（全英オープン、全米オープン、全米プロゴルフ選手権、マスターズ・トーナメント）を見て回ることに相当します。

「錦織の追っかけ」ではないかと疑われる筋もありますが、今でこそ錦織は世界ランキングの上位に居るものの、2年前には準々決勝や準決勝に顔を出せるレベルではなく、単純に「素晴らしい試合を観たい」という欲求からスタートしました。幸運なことにこの2年間で錦織の実力もランキングもぐんぐんと上がり、昨年の全米では日本人選手として90何年振りかの準々決勝での勝利の現場に立ち会うことが出来ました。

トップ選手たちがその時期に合わせて調子を整えてくる4大トーナメントにはそれぞれの特徴があります。全豪は街の中心部にほど近い会場でのカジュアルで親しみやすい雰囲気の特徴です。全仏は街も会場もおしゃれで、何が何でも進行はフランス語で行い、その上ラリーが続き易いという面白さがあります。また全米はコートが大規模で試合の間も音楽が一杯で、選手入場時のアナウンスが派手だったりしてお祭り感一杯のワクワクさせる雰囲気が特徴的です。ウィンブルドン選手権（全英）は様々な制服に身を包んだサポート・スタッフの数が非常に多く、堅苦しいほどのホスピタリティーに溢れています。緑の絨毯のようなコートでの練習中でも強制的に白いウェアを着させられる選手達も緊張感があって特別です。

「4大テニストーナメントのランキング」を付けるとすれば、No.1は全英@ウィンブル

ドンで、2-4位の差はなく、全豪、全仏、全米が同順位と言ったところでしょうか？ 全英は矢張り別格で「キング・オブ・トーナメント」の感じがします。

会場で味わうトーナメントに特徴的な食べ物・飲み物を楽しむのも最高です。多少の時間とお金が必要です（準々決勝、準決勝レベルでも旅行代金の半分以上が中間マージンをたっぷり含んだチケット代）が、テニスを嗜まれる方も嗜まれない方も会場だけでなく街全体・会場全体がお祭りのような雰囲気になる4大テニストーナメントを一度は訪れて見ることをお勧めします。

2015年8月3日 記

写真1 2013年全仏オープンでのナダル（優勝）

写真2 2013年全仏オープンでの国枝（車いすシングルス優勝）

写真3 2014年全豪オープンでのフェデラー

写真4 2014年全米オープンでのセレナ・ウィリアムズ（優勝）

写真5 2015年ウインブルドンで試合前練習中のジョコビッチ（優勝）



写真1 2013年全仏オープンでのナダル（優勝）



写真2 2013年全仏オープンでの国枝（車いすシングルス優勝）



写真3 2014年全豪オープンでのフェデラー



2014 年全米オープンでのセレナ・ウィリアムズ（優勝）



2015 年ウインブルドンで試合前練習中のジョコビッチ（優勝）